

「最近の賃金雇用の動向と労働市場改革」

小林 良暢

1. なぜ企業から家計への波及が弱いのかー賃金・雇用の動向の背景

(1)個人消費の明と暗

暗ー個人消費 7～9 月期実質で前期比 0.7%減、

明ー高額商品好調・・シャープの液晶 TV AQUOS、三洋電機のドラム式乾燥洗濯機 AQUA、三菱電機 “本炭釜”、DAYSON の掃除機、カミヤコト

(2)賃金統計の明と暗

暗ー「毎月勤労統計」所定内給与 3・4 月プラス、6 月ゼロの他はマイナス基調

明ー「法人企業統計」従業員給与前年比 4～6 期 5.6%、7～9 期 6.4%の増加基調

(3)背景に賃金・所得の明暗

①中小企業バイアス

②団塊世代効果ー内転率の低下

③ボーナスへの配分重視

年収 17 カ月（月例給与 12 ヶ月＋一時金 5 カ月）→16 カ月→17 カ月

④非正規化の進展

(4)労働組合の賃金決定過程への影響力が低下したのか？

①中村圭介・連合総研「衰退か再生か」

ー野田知彦「労働組合の効果ー賃金と雇用調整に対する効果の検討」

「労働組合のある企業の方が、ない企業よりも賃金の引き下げに抵抗している」

②内閣府「ミニ経済白書ー日本経済 2006ー2007」

「労働組合側の交渉力が弱まり、労働分配率を低下させている可能性がある」

(5)賃金と雇用の労使合意形成の構造変化

①大幅賃上げと長期安定雇用ー「太田春闘」

②賃上げよりも雇用優先ー「宮田春闘」

③賃金と雇用の構造調整ー「連合春闘」

(6)デフレ経済下の労使が合意したもの

①第 1 の画期ー1990「連合春闘」スタートは自動車中心「トヨタ春闘」

96 ベア「100 玉春闘」、成果配分は一時金

②第 2 の画期ー2002、トヨタ奥田会長の一喝で「ベアゼロ春闘」

③その間一貫して正規雇用の「削減しながら維持」と「非正規活用」

## 2. 労働ビックバン—複線型でフェアな働き方をめざして

### (1) 製造派遣と請負の実態

#### ① 製造現場における派遣・請負の活用実態

電機連合調査—24.3%

(「電機産業における請負活用の実態に関する調査」2004年)。

関東経済産業局調査—25.6%

(「製造業の雇用形態の変化が地域雇用情勢に与える影響に関する調査」平成15年3月)

#### ② 日本を代表する大企業・大工場の派遣請負実態

### (2) “偽装請負”の背後の本質問題

#### ① “偽装請負”の違法性

派遣請負の現場や世間常識にかけ離れた派遣・請負法制

#### ② 請負適正化で労働者に良いことがあったのか？

—一時給アップ、契約期間や社会保険加入が改善したのか？

### (3) 正社員化と常用雇用代替

#### ① 正社員化という“バカの壁”

#### ② 常用雇用代替という“正社員エゴ”

#### ③ 再チャレンジプランの「フリーター2割を正社員に」は“いい線”

### (3) 非正規労働者一括保護法

—パート労働法、派遣法、家内労働法のキャップの調整と一括統合—

#### ① 雇用の安定

「細切れ雇用」に「短期雇用特例退職者給付」と「出稼ぎ手帳」で生活安定

#### ② 「共同雇用責任」と雇用契約の中途解除に金銭解決

#### ③ 均衡待遇

### (4) 日本版ワークシェアリング

#### ① 格差問題—勤労中間層の下層の300万円以下への脱落

#### ② 300万円以下層の100万円アップ—700～900万円層から

#### ③ 700～900万円層から100万、1000万以上是別途課税強化

#### ④ 労働時間短縮と休息时间規制

#### ⑤ 政・労・使のトップ合意